

ビクトリアシアター およびコンサート ホール改修工事



佐藤工業株式会社 シンガポール支店 ビクトリアシアター作業所 工事所長

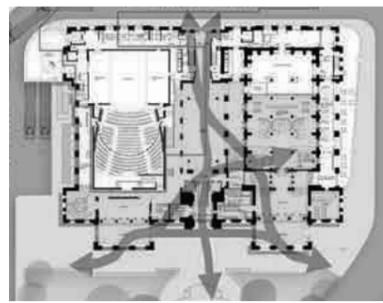
庄子慶三

Keizo Shoji



ビクトリアシアターおよびコンサートホール内景
(施工中)

ビクトリアシアターおよび
コンサートホール全景 (完成予想図)



1階平面と動線プラン



改修後は、この建物がシンガポールのランドマークとしての地位を高め、シンガポール国民に親しまれると共に、さらに多くの観光客でにぎわう場所となることが期待されます。

設鉄骨補強を取り付けたブリック外壁だけを残し、内部の梁および床の構造体解体が行われました。次に、既存ブリック壁の基礎補強と新規地下躯体施工のため、建物内で現場造成杭および山止め杭を施工したあと、地下二階地上五階の新規構造体を既存の外壁内で施工します。建設当時から意匠については、内外壁左官壁のモチーフ、チーク木製床、銅葺きドーム屋根、唐草文様の鋳物手摺、意匠リブ付木製扉等の保存工事が、保存工事コンサルタントの監修のもと、施工要領を確立し、いくつかのサンプル作成を経た上で、専門業者によって行われる予定です。その他、建物の主要用途であるシアターおよびコンサートホール設備については現在の最新音響技術が新たに取り入れられ、専門

コンサルタントの設計と監修に従った施工が予定されています。このように様々な側面を持つこの工事は、高度な技術力が要求される非常に施工難易度の高い工事といえます。

プロジェクトの今後

昨年十月に着工したこのプロジェクトは着工から四カ月が過ぎ、解体工事がほぼ完了し、現在は杭工事と平行して地下の掘削工事が始まるうとしています。

この建物の周辺は様々な歴史的建造物が混在すると共に、日本国内のテレビコママーシャルで評判となったホテルマリーナベイサンズを望むことが出来るシンガポールの代表的な観光コースです。

当社による施工が二〇一三年末に完了後、施設は二〇一四年初頭に再オープンされる予定です。一階アトリウムは観光客が通り抜け出来る設計となっていると共に、建物の一部はバーや小博物館などの新たな用途として一般にも開放されます。

ビクトリアシアターについて

ビクトリアシアターおよびコンサートホールは、一八一九年シンガポールの建国の父といわれるスタンフォード・ラッフルズ卿が、人口一五〇人ほどの南国の小島でしかなかったこの地に初めて上陸したと伝えられる場所に位置します。中央部には時計台、正面から向って左側がシアター、右側がコンサートホールです。初期の建設はシンガポールが英国の属国であった一八五六年に始まり、一八六二年に現在のシアター部分が完成、一九〇五年にコンサートホール部分、翌一九〇六年に時計台部分が完成しました。その意匠は、まさに英国が最盛期であったビクトリア女王時代の様式を取り入れたものです。音楽ホールとしての用途のほか、投票所、卒業式、ダンスパーティー会場としても使用され、第二次大戦中は、病院として使われた記録もあります。近年は在留邦人にもなじみが深く、日本人学校の合唱コンクール会場としても利用されています。

最初の建設以降、一九五四年、一九七九年にそれぞれシアター部分とコンサートホール部分の改修工事が過去に行われていますが、今回建物全体に渡り改修保存工事が計画され、当社が担当することになりました。



ビクトリアシアターおよびコンサートホール
鳥瞰 (施工中)

プロジェクト概要

シンガポールにはこの建物をはじめ、二〇〇五年に当社が保存改修工事を担当したシンガポール国立博物館など、英国の植民地時代に建設された様式のデザインを持つ建設物がいくつかあります。それらの代表的なものは国家遺産としての認定を受けており、この建物についても同様で、改修に当たっては国家開発局の下部組織である記念建造物保存省への計画申請と承認が必要となります。

このような歴史的建築物の改修工事は、まず最初に、既存の意匠と構造の念入りな調査と記録から始まります。その後、今回の工事では仮